



Rotary  
Club of KOBE EAST

# The Rotary club of Kobe East **BULLETIN**



神戸東ロータリークラブ会報

No.381 2016-2017 No1

表紙絵：太原 震也元会員

会 長／横山 幹夫 副会長／澤田 正樹 幹 事／大澤 勇 雑誌会報委員長／石橋 恒生 副委員長／田中 義明  
例会場：ホテルオークラ神戸 例会曜日：毎週火曜日

## クラブ会長テーマ 「楽しもう、そして何ができるか考えよう」

Enjoy Club Life and Think what We can do!



RI President

John Germ  
2016-2017年度国際ロータリー会長





神戸東ロータリークラブ  
会長 横山 幹夫  
理事

「楽しもう、そして何ができるか考えよう！」

Enjoy Club Life and Think what We can do !

2016～17年度第1回目の例会に当たって就任の挨拶をさせていただきます。私は今から27年前の1989年6月に小倉宗夫、植村孝一両会員のご推薦で神戸東クラブに入会させていただきました。今は亡き三好秀雄会長の年度で、須藤雄二会員とは同日入会の間柄です。その後、1997～98年度に木下健会長の下で幹事を、2008～09年度に野田晴清会長の下で副会長を経験させていただきました。途中3年半ほどクラブを離れていた関係で2回自己紹介をさせていただきましたが、2回とも同じことを言いました。自分の出来が大したことはないという認識からか何でも二番手で控え目に堅実にやって行こうと考えていたと。実際、首都圏に対して二番手の関西圏に、関西圏でも大阪ではなく二番手の神戸に住み、学校も中高は灘・甲陽に次ぐ六甲学院、大学も世間で早慶と言われているように慶應に進み、社会人になってからも車はベンツではなくBMWに乗り、おまけに血液型までB型ですと。その流れで勢い余ってロータリークラブに入った以上は副会長ま

では目指すと言ってしまいました。今回はオーバーランをしてしまったようです。

また、先日昔の私を知る後輩のガバナー補佐から「横山さんは真面目だけが取り柄やから」と言われました。「だけ」というのは余分だと思いますが、家で女房に話したところ「あなたは真面目です」とお墨付きをもらいました。これで私が真面目であることは証明されたと思っていますが、決して堅物ではなく、融通が利きますのでご安心ください。

前置きはさておきまして、本年度のR I 会長ジョン・ジャームさんは「ROTARY SERVING HUMANITY (人類に奉仕するロータリー)」をスローガンに掲げ、「会員はロータリーを通じて友人と出会い、地域社会とつながって他では味わえない貴重な経験をしてきましたが、私たちが集う一番の理由は『奉仕』のためである。そして120万人以上のロータリアンが一体となってポリオ撲滅を成し遂げ、勢いをつけてロータリーを更に前進させる時が来た」と我々を鼓舞しておられます。室津ガバナーも地区はR Iの一部であるとの認識で自らのスローガンは設定されていませんが、R I テーマ及びロータリーの目標の達成を目指してロータリー活動を推進することを奨励されています。

これらのことを受けて私は本年度のスローガンを「楽しもう、そして何ができるか考えよう！(Enjoy Club Life and Think what We can do!)」とさせていただきます。

そもそもロータリーの目的とは何かと言いますと、それは定款第4条に明記されています。「意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある」と。具体的には知り合いを広めて奉仕の機会とし、各自が職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識して、それぞれ一人ひとりが個人として、また事業及び社会生活において奉仕の理念を実践することとなって

います。すなわち、職業奉仕が第一義の目的ということになります。

これを一本の木にあてはめるならば「幹」の部分に当たると例えられています。この分野は会員個々の普段の努力に負うところが大きくなるのですが、それを補佐・推進するためにクラブとして何が出来たのか、また会員にとってどういうクラブであるのかが重要になります。「幹」に栄養を送る「根」の部分、すなわちクラブ奉仕の分野の充実をどのように図っていくかが次の課題になります。幸いにもロータリーには毎週開催される例会があります。年齢・職業が違う者が一堂に会し、食事をしながら会話を交わし、卓話を聞いて足らざるところを他のロータリアンから学ぶ。そして得たものを持ち帰り、それぞれの奉仕の実践に役立てる。昨年度は83%と少し低い出席率でしたが、会員の皆様には出来る限り出席して例会を活用していただければと思います。また、例会での交流をさらに円滑にするために会員親睦会や同好会も大きな役割を担っています。なかなか例会だけでは親交を深めることは難しいのでそちらにも積極的な参加をお願いします。そしてもうひとつ是非ともお願いしたいのが、委員会の開催とそれへの出席です。熱心に協議することによってさらに親密度が深まるものと思います。次に「枝」の部分すなわち社会奉仕、国際奉仕それに青少年奉仕の分野ですが、職業奉仕が個々の努力に負っているのに対して団体として対外的にどのような活動が出来ることが問題になってきます。100名を超える有能な人材の集まりですからその気になればどんなことでも出来ます。今社会が何を求めているかを調査し、これまでの事業を継続すべきかどうかの見極めも行ったうえで新たな事業を立ち上げていかなければなりません。先人達のおかげで我が東クラブはよくまとまった素晴らしいクラブとの評価を受けています。しかし、その居心地の良さにあぐらをかいてい

たらいずれ劣化してしまいます。ロータリーに入った理由は各自それぞれでしょうが、単なるステータスにするのではなく、みんなで協力して奉仕活動が出来るという特権を大いに活用していただければと思います。

そして、このクラブが素晴らしいものであるなら、そこにもっと多くの同志を集めようではありませんか。是非ともロータリー活動に賛同いただける多くの方をご推薦いただいて会員増強を図りたいと思います。

最後に、会長という職を務めるにあたってリーダー（LEADER）として次のことに留意してやっていこうと思います。

L……Listen

（人の意見にたとえ反論であっても耳を傾け）

E……Evaluate

（聴き取った内容を正しく評価・吟味し）

A……Advise

（それに基づいて適切な助言を行い）

D……Discuss

（独断専行に陥らず、誰とでも話し合う）

どうか1年間よろしく願いいたします。







副会長  
理事  
クラブ奉仕委員長 澤田 正樹

副会長の任務は、定款細則に簡単に記載されています。そこには、4つの任務が書かれています。

1つは、会長不在の状況では、理事会を始めとするクラブの会合の議長をつとめるという事です。ただ、横山会長の健康度を考えますと、このような状況が生じる可能性はないと思っています。

2つ目の任務は、クラブの管理主体である理事会のメンバーとして、クラブの意思決定の重責を担うことです。とても重要な責務です。私自身、緊張感をもって臨みたいと思っています。

3つ目は、クラブ奉仕委員長の役です。

クラブ奉仕委員長とは、奉仕事業を除いた、クラブのさまざまな活動がスムーズにいくように支援する、調整役委員長と思っています。関連する委員会、即ち、出席、親睦活動、家族、プログラム、週報、雑誌会報、R情報、会員選考・職業分類の8つの委員会の委員長さん達が、存分にその役目を果たしていただけるように良い雰囲気を作り、さらに各委員会間の連携が取りやすいような環境を作っていくことが任務であると思っています。

4つ目は、3役の一員として、いろんな雑用に汗を流す役目です。これが最も重要な役目と思ってい

ます。会長さん、幹事さんをサポートし、誠心誠意、雑用をこなしていく所存であります。

横山会長のテーマは、楽しもう、そして何ができるか考えよう！です。

私も少し考えてみました。今年の規定審議会制定案、即ち、新しい定款の具体的な内容は、R情報委員長であり、改正特別委員会の高嶋良平委員長から、ご報告があると思いますが、私なりに感じていることをお伝えしたいと思います。

象徴的に言うと、国際ロータリークラブ、R Iが目指すロータリー観、目指す世界と、我が神戸東ロータリークラブが創立以来62年間に渡って培って築いてきたロータリー観にずれが生じているということです。このズレの感じは、会員の皆様も感じておられると思います。今回、新しく制定されたR Iの標準定款の中で、ロータリークラブの目的がはっきりと定義されました。「成果あふれる奉仕プロジェクトを実施し、会員増強を通じてロータリーの発展に寄与し、ロータリー財団を支援し、クラブレベルを超えたリーダーを育成することである」と明記されました。これが、ロータリークラブの目的といわれても、素直に受け入れがたい方も多いと思います。このR Iが見ている地点と我がクラブの目指す地点のずれが、今後、少なくなるのか、逆に広がるのか、この1年大いに議論が尽くされることが大切なことと思います。この神戸東ロータリークラブのこれからの姿を決める重要な始まりの年度だと思っています。クラブ奉仕委員長としては、難しい状況の年度にお役目を頂戴したと深く責任を感じています。

皆様には、例会にしっかり出席していただき、一緒に考えていただきたいと思います。お願い申し上げます。

副会長として、重ねて、お願い申し上げる次第です。



幹事  
理事 大澤 勇

幹事を仰せつかりました大澤です。

当クラブ入会は平成 21 年 10 月 13 日で、ロータリー歴 6 年 8 ヶ月ということで、まだまだ新参者です。当時、岡会員が幹事をされていて、「大澤さん、楽させますよ」の一言で入会したのが昨日の事のようにです。

親睦をスタートにプログラム・会員増強・職業奉仕と経験をさせて頂きました。すこしハードルの高い思いをしながらも、委員会の皆様に助けられながらなんとかやってこれましたし、ある意味で達成感も味合わせて頂きました。お蔭様で本当に楽しいクラブライフを過ごさせて頂いております。

数か月前に、横山会長から突然、幹事のご指名を頂きました。

この 110 名にならんとする伝統あるクラブの幹事を務める事など、少し高いハードルではなく非常に困難で大変な事だと思い、最初は固辞しました。

そうすると横山会長から「私がフルカバーする」という言葉と「副会長には澤田会員を考えている。」という言葉頂き、二人が居られるのであれば、どのような事態が発生しても何とか出来るだろうと思い、お引き受けをする事となりました。

本年、横山会長は「楽しもう、そして何が出来るか考えよう！」をテーマに、1 年間より深い親睦と新しい奉仕の実践を皆様と共に協力してやりましようとおっしゃっております。

この会長方針の元、全力でサポートする所存ですが、私自身は分からない事ばかりなので、皆様のご協力を頂きながら進むしかありません。

会員卓話を中心とした例会、活発な委員会活動、多彩な同好会活動そして和気藹々とした親睦会などで会員同士の絆をより強固なものとし、むつみ会の皆さん、事務局の皆さん、ホテルオークラの関係者の皆さんと連携を取り合いながら全員参加型の運営を心掛け、それらを結集して奉仕の実践に繋げたいと思います。

どうか、この 1 年、クラブ運営に対しまして格別のご理解とご尽力をお願い申し上げましてご挨拶とさせていただきます。





職業奉仕委員長  
理事 吉田 正人

本年度、職業奉仕委員長を仰せつかりました吉田でございます。

委員会構成は、副委員長に石本会員、委員に西村会員、池西会員、畑崎会員、後藤会員（悉皆番号順）でございます。どうぞ宜しくお願い致します。

昨今、三宮界隈の飲食店の閉店（廃業）をよく目にします。大手電機メーカーや大型販売店ですら、存続できないケースが出てきております。時代のスピードが速過ぎると、市場のニーズが非常に分かり辛い時代になったように感じます。

ゴディバジャパン社長のジェローム・シュシャン氏は日本の弓道歴30年、錬士五段の腕前です。弓道に「正射必中」という言葉があります。正しく射れば矢は必ず的に命中するという意味です。会社経営に於いて、「売上利益」は目的ではなく結果であり、「姿勢動作」が正しければ結果として売上利益が付いてくるというのは、この弓道の「正射必中」の考えに通じるとおっしゃっておられます。

私が考えますに、この正しい姿勢動作というのは、職業奉仕の考え方である「高い倫理基準を保つ」ということではないかと思えます。同時に、時代のスピードや市場のニーズを的確に捉えることでしょ

う。その為に何をすると申しますと、我々ロータリアンは毎回例会に出席し、色々な職業人と出会い語り合い、経営上のアイデア交換をすることで知り学び、そこで得た事を基に職業を通じて奉仕を実践することだと考えます。このように見てまいりましても、私はロータリークラブの中核は職業奉仕だと思います。今年度の会長方針にも、職業奉仕は木の「幹」の部分に当たるとあります。

しかし、私は社会奉仕を否定している訳ではございません。私は5年間地区の青少年奉仕委員を務めさせて頂きました。社会奉仕（ボランティア）の素晴らしさは、利害のない者同士が力を合わせて汗を流す爽快感と連帯感です。皆さん、RYLAセミナーをご存じでしょうか。先日、学友生からの卓話がありました。ご存じでも参加したことのない方が殆どではないか思います。無人島（余島という小豆島の近くの島）で4日間、受講生が或るテーマについて議論するセミナーです。私はこのRYLAセミナーに委員として参加して初めてボランティアを経験し、止められなくなる人の気持ちが少し分かりました。時間も労力も犠牲にし、時には自腹も切る。それでもやりたくなるのは、利害のない者同士が人の為に汗を流す。この仕事でも趣味でも味わったことのない爽快感です。これを教えて貰ったロータリークラブには大変感謝しております。

同時に分かったことは「ボランティアは（この爽快感を求めて）本人が自発的にするものであり、仕事を犠牲にしてまでするものではない」ということです。つまりそれは職業奉仕がロータリーの中核であるということだと思います。

ですから、会員の皆様には職業奉仕だけでなく社会奉仕もして頂き、出来れば地区委員になって、このような感動を味わって頂きたいと思う訳ですが、仕事が忙しくて余裕のない方は各々の職場で職業奉仕に専念して頂いて、その分ロータリー財団や米山

記念奨学会等へしっかり寄付をして頂くということで宜しいかと私は思います。

なお、今年度の活動と致しましては、職場訪問を当クラブの会員の職場へ訪問させて頂くことを考えております。具体的に決まりましたらお知らせ致します。

本日は職業奉仕と社会奉仕という観点からお話しさせて頂きましたが、これに関しまして最後に、昨年の地区職業奉仕セミナーであったお話を少しだけご紹介させて頂きます。「たくさん働き、たくさん稼いで、たくさん税金を納める。」これは職業奉仕ではございません。社会奉仕です。「良い事をしよう。人の為になることをしよう。」これを職業上で行うのが職業奉仕、職業以外で行うのが社会奉仕です。

以上をもって、ご挨拶とさせて頂きます。ありがとうございました。







社会奉仕委員長 香山 道宣

本年度、社会奉仕委員会の委員長を仰せつかりました香山でございます。

一年間色々とお会員の皆様方には行事にご参加のお願いもあろうかと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

委員会メンバーには、副委員長に鈴木祐一会員、社会奉仕事業に精通している吉田茂会員をはじめ、伊藤隆啓会員、横山公一会員、太原晃一会員と盤石な体制で臨んでおります。

会長テーマであります「楽しもう、そして何ができるか考えよう！」をモットーとして、夜の委員会活動も頻繁に楽しく行いたいと思っております。

活動内容ですが、まず継続事業として神戸市立青陽東養護学校生と友生支援学校生の招待ボウリングは例年通り実施いたします。いつもながら生徒達の楽しんでいる姿には奉仕の喜びを感じます。神戸東プロバスケットボールクラブ、前年度から始まりましたNPO法人クルーズの支援も行ってまいります。

続いて、本年度も地区補助金承認をいただきました「社会奉仕委員会プロジェクト」をご説明いたします。

本年度プロジェクト名は「福祉事業所での本格的なお菓子の製作・販売の支援」でございます。横山

幹事会長の発案にNPO法人クルーズの賛同をいただき現在準備進行中でございます。

まず神戸市内のお菓子作りをしている障がい者の福祉事業所を対象に、事業意識が高く環境的にも最適な事業所を選定します。そしてその事業所に業務用オーブンや卓上ミキサー等、業務用の設備を寄贈して技術支援を行います。この技術支援には当クラブの福原敏晃会員が担当いたします。そして更に出来上がったお菓子の販売協力も支援いたします。売れるお菓子の包装。ここでも当クラブ会員に技術支援をいただく予定であります。地区補助金額は上限の約50万。しっかりとその金額に見合う結果を出したいと思っております。

現在、神戸市内の数多くの障がい者の福祉事業所で日常活動としてお菓子作りをされています。その作業工程は支援者の技量や知識や経験によるところがあり品質や味には大きな差があります。そこで今回の社会奉仕プロジェクトは障がい者の「働きがい」を高め、社会との関わりを深める事に繋がります。自立できる障がい者の福祉事業所の支援は必要とされています。福祉事業所関係者の方をはじめご家族の方々にも勇気と喜びと幸せを与える事業であります。

社会奉仕プロジェクトを実施するにあたって、会員の得意とする職業上の能力や職業以外の力を惜しみなく生かすこそロータリークラブの社会奉仕の精神ではないでしょうか。

どうぞ会員の皆様の一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。社会奉仕委員長の就任挨拶と代えさせていただきます。ご清聴有難うございました。







国際奉仕委員長  
理事 土田 剛司

## 1. はじめに

この度は国際奉仕委員長を拝命し、大変恐縮致しております。過去の委員長を調べてみますと外国経験が豊富で英語も堪能な方ばかりです。私はと申しますと、仕事もプライベートも内需型です。しかも英語が得意ではありません。こんな私は全く国際奉仕委員長に相応しい資格があるとは思いませんが「自分に対して与えられるハードルは受けるべし」の信念も持っていますので、とにかく一年間頑張りたいと考えています。委員は国際感覚優れた方々をお願いしております。委員長の實力不足な点は委員の方々のお力を拝借したいと思っておりますので、よろしくお願い致します。また、会員の皆様には、委員長では頼りないと思われる場合、委員の方々にご意見ご相談等お寄せ下さいますようお願い致します。皆様、一年間ご協力よろしくお願い申し上げます。

## 2. 本年度活動計画

本年度国際奉仕委員会の具体的活動計画は以下の通りです。

(1) ブリスベン、シンガポール等シスタークラブとの交流の維持発展に努めます。

基本的には周年事業等で交流の要請があれば前向きに検討したいと考えています。

(2) V T T (就業研修チーム) への協力支援を推進します。

これまで 2680 地区で行われた V T T としましては

2013～2014 「フィリピン派遣 C L E 教育プロジェクト」

2014～2015 「ネパール看護師能力向上プロジェクト」

2015～2016 「韓国派遣成年後見制度プロジェクト」等があります。

新しい V T T が地区からできるようでしたら当クラブとして協力の検討を行いたいと思えます。

(3) 人道的プロジェクトへの理解を深めます

人道的プロジェクトの主な項目としましては、

- ・平和と紛争予防・解決
- ・疾病予防と治療
- ・水と衛生
- ・母子の健康
- ・教育と識字率向上
- ・経済と地域社会の発展 等です。

この一年、人類的規模の上記テーマに対して問題意識を持つとともに、何かの取組みを、クラブとして行えるか考えていきたいと思えます。会員の皆様もご意見等がございましたら委員会までお寄せ下さい。

(4) 国際奉仕に関する問題の対応を行います。

クラブの中で広く国際奉仕に関する問題が発生する場合には対応したいと思えます。

(5) 青少年奉仕委員会が行う「王子動物園での永田萌さんとの写生会」に神戸市内の外国人学校に通う児童・父兄も参加できるように働きかけます。当事業の目標である青少年の芸術性、生



命を慈しむ心の育成に対して、神戸らしく国際性を加え、当事業の一層の発展に協力できたらと考えています。

(6) 寄付金の募集支援を行います。

本年はロータリー財団100周年であり、寄付金の充実を通してクラブ及び地区の一層の活性化を目指すとの事です。ロータリー財団委員会の後方支援として当委員会も寄付金集めに協力したいと考えています。

3. 最後に

直近の国際政治状況においてイギリスのEU離脱、アメリカ大統領選でのトランプ候補の台頭等グローバルズムからナショナリズムへの回帰かといわれるような現象が発生しています。人生80年程度の中に、幼少年期、青年期、壮年期とあるように、国際社会も100年程度の節目の中で、成長期、活動期、安定期、衰退期といったサイクルを繰り返すのかもしれませんが。

本年度、横山会長はロータリー活動について「木」に例えられています。職業奉仕が「幹」です。その幹に栄養を送る「根」の中心に「例会」があります。そして幹の育ちである「枝」として「社会奉仕」「青少年奉仕」「国際奉仕」を挙げておられます。

国際奉仕委員長としてこの一年間世界がどう動いていくのか、国際社会が必要とするものを観察し、身近なところで事業に取り組むことを目標にしたいと思います。





青少年奉仕委員長  
理事 樋口 一哉

この度、青少年奉仕委員長を仰せつかりました樋口一哉です。

青少年を育成する為、以下のプログラムを実行していきたいと思えます。

・神戸市少年野球団 親善試合 後援

平成19年より始め、今年で10回目を数えます。中央区の少年野球チームの6年生が集まり、普段は、競合するチームとして戦いますが、この企画では4チームにバラバラに別れ、他校の生徒と同じチームメイトとして試合を行います。小学校最後の試合でもあり、楽しい思い出を沢山作ってもらいたいと思えます。今年で、10回目の区切りとなりますので、当クラブからの後援は、これで最後となります。今まで、御協力頂いたみなさま方に感謝いたします。

・永田萌さんとの写生会 後援

近隣の小学生・幼児を対象に、絵本作家の永田萌さんが指導評価を一人ずつにします。

今年は国際奉仕委員会と協業で可能なら、市内の国際学校の生徒も招待していきたい。

・RYLAセミナー

昨年より5月末に変更され寒さも和らぎ、日程的にも行きやすくなってきています。過去には、当クラブ会員の会社から複数名、RYLAに参加頂き、好評を得ています。ぜひ、将来の幹部候補生をRYLAに送り、リーダーとして育成する一助にしませんか。

又、ロータリアンとしての参加も可能です。

過去には久野ガバナーエレクト（当時）、松下会長（当時）の御伴もしております。

今年の三役はいかがですか。

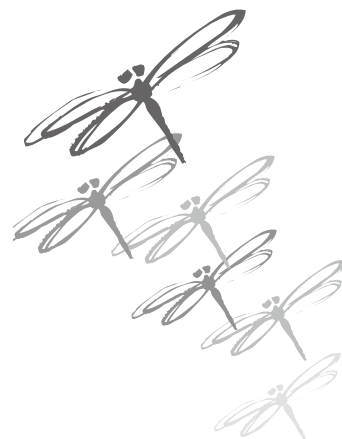
最後に、当クラブでは全く経験のないインターアクトクラブ設立に向けて尽力したいと存じます。対象校は、中・高一貫男子校の六甲学院です。

御存知かと思いますが、中学校・高校におけるクラブ活動の一環として、奉仕活動・親善活動・国際奉仕活動を行うクラブで顧問の先生が指導し、ロータリーは後援する形となります。

10月より先方と交渉に入る予定です。

蛇足ですが、地区では学友会活動を応援していく所存です。

以上よろしくお願ひします。







地区増強・拡大委員長  
大橋 泰弘 (宝塚武庫川 R.C)

## 『増強・拡大月間に因んで』

1. 今期、地区増強・拡大委員会の活動方針について  
室津ガバナーがGETSにて、この部門に対し、RIより得てこられた方針として、地区増強・拡大&公共イメージの向上を一体と考え、魅力的で活発なクラブづくり。新会員を惹きつけ入会させることによって、新会員を増やすとともに会員維持率を高める、そして、新クラブを作り、クラブおよび地区の会員基盤を増強することを使命とする。と云うのが、当委員会への諮問事項でした。

RIが行った調査では、ロータリー入会の理由として最も多かったのは、「社会への貢献」です。

このことから分かるように、クラブが地域で社会貢献できる活動を行い、その成果を人々に知ってもらうことは、会員増強の重要な一部です。

また、会員が積極的に活動しているクラブほど会員維持率が高いことは周知の通りです。

会員の積極性を引き出す方法として、

- ・地区委員会委員になってもらう
- ・例会で重要な役割を担ってもらう
- ・奉仕プロジェクトに参加してもらう

- ・新会員のメンターになってもらう

地元社会を改善するだけでなく、他の地域や国際社会で奉仕活動を実施しているクラブは、会員維持率が高く、人々にいいイメージを与えます。また、それらの活動に参加している会員は、クラブを楽しみ、新会員を惹きつける魅力を持っています。

ロータリーは、ポリオ撲滅活動を始め国際社会をより良くし、社会から信頼できる団体であるという理解が深まれば、ロータリーへの関心が高まるだけでなく、会員の誇りとやる気も培われます。そして、会員増強にもつながるでしょう。そのためのロータリーの公共イメージ向上を図る必要があります。そのための方法は

- ・マラソン大会、リサイクル活動、ロータリー・デー、ポリオ撲滅募金活動等の特別行事を主催・共催
- ・美術館、学校、市役所、図書館等での展示
- ・新聞、雑誌、掲示板、バス、駅構内での広告
- ・ロータリーの情報をクラブと地区のウェブサイトやソーシャルメディアに掲載したり、地元の人々に国際ロータリーのウェブサイト (Rotary.org) を紹介
- ・R財団の補助金プロジェクトやクラブの社会貢献を地域社会や地元メディアに広報する

2. 2016年4月29日地区研修・協議会増強・拡大&公共イメージ部門分科会について

当日午前の全体会議では、安満良明氏（鹿児島、加治木RC）第3ゾーンロータリーコーディネーターの当委員会に対しても示唆に富んだお話があり、その内容も含め25分間、当地区内74クラブが11テーブルに分かれてグループディスカッションとなりました。その1部を紹介します。

増強・拡大&公共イメージ部門

西宮 ディスカッションの時間が短いので十分な議論が出来ない中、テーブルリーダーが上手くまとめてくれた。数年にわたり退会者を出していないクラブは素晴らしい。

神戸 本会議が長時間すぎ、分科会が簡単になりすぎ、いっそのこと、分科会をじっくりやってから本会議を行ってはどうか。

神戸西神 公共イメージについてクラブ内に委員会がないクラブがあり、それについての議論はありませんでした。(未来の夢計画、→ロータリー戦略計画に、クラブ細則の変更遅れ)

神戸東 40歳以下の会員増強は現実的ではないように思います。45歳以下、または50歳以下でよいのでは。(高齢化が進むクラブでその余裕は?)

明石北 もう少し時間を長くしてほしい、時間配分を考えてほしい。

龍野 ロータリークラブに理解の深い入会候補者は現会員の子弟に多いが、同じ団体に2人入会するのは難しいので現会員が高齢になられる間に、他の団体にとられるケースが見られる。具体的な防止策を考える必要があるのでは。

神戸六甲 増強・拡大はクラブ内単独で行うのは大変難しいと思います。弱小クラブを補強するためには地区が協力サポートする必要があります。神戸RCの様なクラブと神戸六甲RCの様な弱小クラブについて地区でアイデアを出してください。

赤穂 皆さんの意見が聞けて参考になりました。

3. 6月12日開催の『地区増強・拡大&公共イメージ委員会合同セミナー』について

1.の諮問を受けて、合同セミナーの開催趣旨は、増強・拡大と公共イメージ両委員会がコラボ

することにより新しい観点から、中長期的にわたり、それぞれのクラブに相応しい方法で活性化につなげて頂きたいと云うものです。50分の講演の後、圓尾地区増強・拡大副委員長のコーディネートにより、講師を含む5名のパネリスト(講師、滝川ガバナーノミニエ、地区委員3名のパネラー)による、パネルディスカッション、また、参加者による質疑応答は、意見、質問、感想等活発な交換が展開されました。

4. 講師 渡辺 敏彦氏(新潟南、P.G,第1ゾーンR.P.I.C)

演題『公共イメージと認知度の向上による会員増加』について

30数ページにわたるパワーポイントによる講演で、即効性には欠けるが中長期的に見て、公共イメージの向上が、増強・拡大に資する部分がいかに大きいかと云うお話でした。

(当クラブからの参加者は?・・・クラブに報告依頼)

講師渡辺氏の所属する新潟南RCは一時100名から少しの期間で53名へ減少する苦難の時期をどの様にして乗り越えられたか、その際にとった、回復の手法、期間を質問し、得た回答は

1. 発端は会員数名で、先ず5~6名を入会に導いたこと。
2. クラブ会員増強委員会で入会キャンペーンを行い、全会員からヒアリングのもと、入会候補者リストを作成し、候補者1名ずつに担当者を明記し、情報を共有すること。
3. 入会を薦める際担当者の他、繋がりのある者1~2名を加え2~3名で説得すること。
4. クラブの会員増強委員会では、2か月に1度「拡大会員増強委員会」とし、会長・幹事・パスト会長・新入会員を対象を広げ開催すること



を数年間続けたこと。これを2～3年繰り返して行なうなかで、53名が5～6年後に20名増え、これで弾みが付いて、新入会員が新たに新入会員を呼ぶということが常となり、更に7～8年後には98名となり、ほぼ元通りになったそうです。

#### 5. 国際ロータリー第1・第2・第3ゾーン会員基盤向上セミナーについて

日時：4月4日 10：00～17：30

5日 9：30～16：00

場所：東京ホテルオークラ

小沢 一彦氏

- ・職業分類、未充填にスポットをあてる（主婦、無職の人も可）
- ・昼例会の弊害について（時を見て、夜例会又は目的を持ったFSMを考える）
- ・ロータリーに年功序列はない（退会に結び付くトラブルを生む）
- ・テーブルの定期的変更（派閥の解消）
- ・会費の低減

立野 純三氏

- ・《企業》VS《ロータリー》・・・増強へのモチベーションの差
- ・全会員が増強意識を共有する
- ・他クラブへの訪問を奨励、促進する
- ・核となる若手会員による同好会活動を活性化

その他

1. ロータリー財団100周年について（ロータリー・デー等を利用し大々的に）
2. 年次寄付0クラブの解消について（ガバナーの熱意に…）
3. 補助金の有効利用、グローバル補助金の利用

分野について（芸術家が除外されている点）

4. ポリオプラス活動の成果をロータリーの公共イメージ向上につなげる（何度でも広報する）
5. 今一度、Passion,Vision,Action を若い会員を中心に再確認しよう

#### 6. 結論

今期この委員会に対するガバナーの方針により、会員増強は先ずクラブの意識改革から始め、色々な奉仕活動（クラブ独自、地区補助金、グローバル補助金等）を利用した奉仕活動、ポリオ撲滅運動等を地域社会に発信、啓蒙し、ロータリークラブのイメージの向上を図ることにより、好感度を上げ、少々時間がかかるが中長期的な視野で増強の方法を模索することです。

過去、隠匿の精神が日本人の美德とされ、ロータリーの活動を積極的に発信することはなかった。

積極的に社会に発信することばかりに気をとられ、「切磋琢磨し互いに磨きあい、人格を高めるロータリーの奉仕の主体は自己のもの。」と云うものがないがしろになっていないかと云うご意見もありました。最近では地域から高齢者の多い金持ちの団体で、閉鎖的なイメージがあると云われ様になりました。この様な点からも先に述べた様に、新しい視点から、各クラブそれぞれの方法で増強を考えようと云う訳です。

このクラブからも地区研修・協議会、地区増強・拡大&公共イメージ合同セミナーに参加された委員長を中心に取り組んで頂きたいと思います。

具体的にはセミナーに於いて講師、渡辺俊彦第1ゾーンRPI Cの話、またディスカッションの内容等を参考にそれぞれのクラブに相応しい方法を考えて頂きたいと云うことです。

ご清聴有難う御座いました。



会員随想 「神戸東RC 昨日・今日・明日」

執行 英毅

私が神戸東ロータリークラブに入れていただいたのは1970年、丁度大阪万国博覧会が開催された年の7月であった。クラブ創立後漸く16年を経た年にあたる。今思えばその頃の我がクラブは既に会員同志打ち解けあった独自の雰囲気と、ロータリーの真のあり方を模索しながら進んでゆこうという、驚くほど純粋な気風を肌で感じた事を思い出す。

先年クラブ創立50周年と、60周年のけじめに夫々立派な記念誌が作られた。何れもゆき届いた力作の記録だが、自分もその中の「ロータリートーク」に身を置き乍ら、時を経て意外な史実に改めて触れ、新鮮な体験を覚えることもあった。ここでは耳慣れぬ昔語りにすぎないかも知れないが、私なりに勝手な感懐をたどることにさせて戴く。

クラブ理事会はクラブ自治のための独自の決定機関とされている。理事会の議題や話題はクラブ運営上の最新事項として、たとえ新入会員にとっても、ロータリークラブを理解するためにも最適の情報源であるはずである。私の体験として入会后暫くたってある先輩が「・・・今話した様な事は理事会でも日常的な話題であるから、理事会に出ているとよくわかるのだが・・・」とつぶやかれた。ということは理事会の「傍聴」ということである。思い出してみると熱心なある長老会員は、理事会メンバーではなくとも欠かさず出席して相槌を打ちながら聞いておられたことを思い出す。おもえば理事会議事は新入会員にとっては最良のインフォメーションであり、カリキュラムとしてその「傍聴」をシステム化することは如何だろうかと思うのである。

ついで話題をかえる。わがクラブには風流人、粹人といわれるお方も少なくなかった。テリトリーが

阪神間という土地柄にもよるからだろう。わがクラブの第14代会長に、小網与八郎さんという方がおられた。当時「世界長酒造株式会社」の社長さんである。大変な粹人で趣味には長唄、謡曲、茶道、囲碁、それに写真（8ミリムービー）とあった。日頃は誠に温厚な酒脱なお方であったがクラブの親睦には大変な配慮と尽力を戴いた。圧巻は毎年12月30日、ご自宅で開催される「四一の会」という忘年会だ。全会員に、招待状を戴き希望者は夕刻お宅に参上する。「四一」というのは「一杯」の茶（薄茶）と菓子、「一杯」の酒、「一盛」の年越そば、最後に「一卷」のフィルム、というのは自ら撮影したその年のクラブ行事記録である。小網さんの心意気のこもった誠に粹な集まりであった。一かどの粹人と皆さんは思っていたが難局には卒先立ち向かうという男気の方でもあった。安福ガバナーの名コンビとして活躍の小野地区幹事が、任期中に急逝された時には率先起って後事を引き受け、立派にお役目を果たされた。ロータリアンの典型を眼のあたりにし、会員一同にとり誠に有り難いことであった。

大変まとまりのない話題であったが、思いつくまま昔のクラブの思い出を辿ってみた次第である。



仲間と共に(1990年6月)



お酒・お食事・音楽と夕暮れのオーシャンビューを堪能しました

ーラ・スイート神戸オーシャンガーデンにてー







8月9日(火)午後6時から、ラ・スイート神戸オーシャン・ガーデンにおいて、第1回の会員親睦会を開催いたしました。会員68名のご参加を頂き、和やかで和気藹々とした雰囲気の中、お酒とお食事、音楽と夕暮れのオーシャンビューをお楽しみ頂いたのではと思っております。

今回の親睦会では、会場に隣接する施設で入浴もお楽しみ頂けるよう企画を致しました。如何でしたでしょうか。

お盆前のお忙しい時期でもあり、また今年は例年

以上に厳しい暑さが続くなか、多数の会員諸兄にご参加頂き厚くお礼申し上げます。

至らぬ点多々あったことと思いますが、今後の糧として先輩諸兄の忌憚の無いご意見を頂ければと思っております。

最後に、委員会メンバー、ラ・スイートのスタッフの皆さんはじめ、お世話になった方々に心より感謝申し上げます。

(親睦活動委員長 弘田 芳裕)





余韻会 (俳句同好会)

平成二十八年五月二十六日 於 西村屋 花みかげ

信心の杖に阿波路の風薫る	本郷 桂子
戸を練れば香り懐し菖蒲風呂	執行 執艸
夏霞紀伊も淡路も消え失せり	高石 潜菴
菖蒲湯の香りただよふ山の宿	白羽 子誠
同行の脚をいたはる遍路かな	角田 伯堂
札所まで言葉少なき遍路かな	壺井 仙岳
こだはりの香も色も良き新茶買ふ	松原 氣宏
影ゆらぎ池の水面の花菖蒲	池西 清栄
初孫を抱き菖蒲湯にひとりけり	神品 平
羽音聞く竹のささやき風五月	橘 恵子
風うけてたんぼの絮風まかせ	村野 離翔

余韻会 (俳句同好会)

平成二十八年六月三十日 於 西村屋 花みかげ

西日かたむけて棚田の傾ぐかな	本郷 桂子
海霧の中望む占守 <small>シムシユ</small> の古戦場	執行 執艸
老いてなほひとり代搔く棚田かな	高石 潜菴
色褪せてかぶる人なき夏帽子	白羽 子誠
あめんぼう動く気もなく浮き居たり	角田 伯堂
田植待つ狭き棚田や過疎の村	壺井 仙岳
貴婦人に似合ふ夏帽ミサの朝	吉井 聖悻
棚田から風の旋律田植唄	松原 氣宏
街路樹の影に休みし夏帽子	池西 清栄
帽子脱ぎ空を見上げて汗をふき	神品 平
海風をうけて飛びゆく夏帽子	橘 恵子
進みては流れに戻りあめんぼ	村野 離翔

余韻会 (俳句同好会)

平成二十八年八月五日 於 西村屋 花みかげ

無き細り鳴き途絶えつつ庭晩夏

本郷 桂子

近付けばまた遠ざかる蝉時雨

執行 執艸

風にのる囃子太鼓や夏深し

高石 潜菴

高波に人影まばら浜晩夏

白羽 子誠

淵深く岩魚の影が動きけり

角田 伯堂

そよ風に晩夏の匂ふ空青し

則岡 弘士

手ひねりの猪口に冷酒を満々と

壺井 仙岳

夏深しハンドル握り深呼吸

松原 氣宏

湯上りの一寸一ぱい冷酒かな

池西 清栄

冷酒くむ手酌に空のくれなつむ

神品 平

家手入れする音のみぞ夏深し

橘 恵子

流木の流れつくまま浜晩夏

村野 離翔





絵と文 三原 孝公

「スペイン旅行の思い出」

洞窟風の造りがエキゾチックなタブラオ。踊り子の熱気と強烈な色彩に感動 !!

CONTENTS

3 役就任挨拶 .....	1
4 大奉仕委員長就任挨拶 .....	5
増強・拡大月間に因んで .....	11
会員随想 「神戸東RC 昨日・今日・明日」 .....	14
第一回会員親睦会 .....	15
余韻会 .....	17

編集後記

神戸東ロータリークラブの会報は本来、年度事業の記録と会員間のコミュニケーションツールの役割があります。

私が入会をさせて戴いた25年前から現在にいたる間、ロータリークラブ活動の内容は様変わりしてきています。今年度の年3回の会報では表紙も少しリニューアルし、年度の記録と共に39歳から92歳までの会員の声を「神戸東RC 昨日・今日・明日」と銘打って諸先輩に大いに語っていただき、もう一度足元を見つめなおしていただく機会になれば幸いです。原稿の依頼や取材の際には、何卒ご協力を宜しくお願いいたします。

人生の貴重な時間をロータリーの仲間と共に有意義に過ごしたいものであります。

雑誌会報委員長 石橋 恒生